

会 議 録

1 会議名

令和4年度第2回新道区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

○ 地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組等について

(2) 自主的審議事項（公開）

① 前回会議の振り返り

② 分科会

③ 本日の審議結果について

3 開催日時

令和4年5月26日（木）午後6時から午後7時44分まで

4 開催場所

新道地区公民館 多目的ホール

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委員：秋山 茂、飯塚幸太郎（副会長）、井澤 愛、金井 正、小玉朋子
佐藤三男、杉田榮作、千町健実、高野ゆかり、塚田仁子（副会長）
船崎 聡（会長）、本城敏男、三浦正郎、横山明夫（欠席なし）
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター：小林センター長、藤井係長、山崎主事

8 発言の内容

【藤井係長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務め

ることを報告

【船崎会長】

- ・会議録の確認者：小玉委員

次第2 議題「(1) 報告事項」の「地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組等について」に入る。事務局より説明を求める。

【小林センター長】

- ・スライドを用いて説明

【船崎会長】

今の説明に質疑を求める。

【船崎会長】

将来を見据えた「理想的な姿」とあるが、20年、30年かけて問題になってくる人口問題等は、市でも第7次総合計画にも掲載されると思う。これと相反した方向性を打ち出してもよいのか。地域協議会が、新道地区をこうしたいとした方向性には、人口や財政の問題が絡んでくるだろう。当然、市の計画と相反する可能性も出てくると思う。

【小林センター長】

「地域自治推進プロジェクト」と全市的な「第7次総合計画」の策定が、これから進められようとしている。方向性の作成にあたって新道区と市の方向性が違ったとしても、違うから駄目とは言えない。ただし、お互いにこれから作成を進める段階なので、話し合いの中で、方向性が一つになるように、歩み寄っていけたらよいと思う。

【船崎会長】

令和4年度で地域活動支援事業は終了する。そして地域協議会は自主的審議を進める。自主的審議には3つの解決方法があり、9月までに市へ意見や提案をすると次年度予算に反映されるかもしれないと説明を受けた。同様に令和5年度も自主的審議から令和6年度予算を目指すことになるのか。

【小林センター長】

現在決まっていることは、説明資料「地域協議会から取り組んでいただきたい事項」のスケジュール表のとおりである。また市で取り組むこととして「地域独自予算」は令和6年度以降に事業実施すると決まっている。

【船崎会長】

もし今年9月までに市へ意見や提案ができなくても、次の予算編成に間に合えば、令

和6年度から実施できるものと理解した。

もう一つは予算額の概算である。これまで各区に配分されていた地域活動支援事業の総額と同額であるのか。

【藤井係長】

「地域独自予算」の財源について、これまで地域活動支援事業費補助金は、全市28区の総額で1億8,000万円あった。今後についてはまだ決まっていない。皆さんには当然期待される部分だと思うが、それも含めて検討を要するものと思っている。

【千町委員】

要は、金額については青天井で考えていいのだろうか。

【藤井係長】

今はまだ配分枠があるかどうかを考える状況にはない。だから地域の課題を解決する方策や地域に必要なものがあれば、議論をまとめていただいて、ご提案いただきたい。金額については何もないというところである。

【佐藤委員】

もう一つ確認するが、新道区地域協議会では、前回から分科会を作って、地域の活性化のための事業をグループ単位で取り組んでいるが、説明のあった元気事業や意見書提出などを検討していくことでよいか。

【藤井係長】

あまり固まったものではないのだが、地域の課題解決や活力向上のために、テーマをお考えいただいてきたので、そのゴールに向かっていく方向で、元気事業、意見書または地域内で団体と一緒に解決する等の方法にたどり着けばよいと思う。

【船崎会長】

新道区地域協議会の事務局は中部まちづくりセンターだが、13区では区総合事務所が事務局を担当していて、地域協議会の担当職員がいる。中部まちづくりセンターの場合は、新道区だけではなく5つの区を担当しているが、その点について調整などないのか。

【藤井係長】

これから話題になると思うが、資料1-1で説明した地域自治推進プロジェクトに、検討の展開順序や検討事項の論点例がある。この中には、地域協議会の役割と一緒に、総合事務所とまちづくりセンターの関わり方も併せて検討することになっている。会長は、地域協議会のサポートが十分できるかを心配されているが、それも含めて検討されると

思う。

【船崎会長】

今年1月に市長の話を聞いた時点では、よくわからなかったが了解した。

以上で次第2 議題「(1) 報告事項」の「地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組等について」を終了する。

次に次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「①前回会議の振り返り」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・資料2に基づき説明

【船崎会長】

以上で次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「①前回会議の振り返り」を終了する。

次に次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「②分科会」に入る。

事務局の説明にもあったように、分科会を開催する。まず分科会の名称と審議の方向性、目標を決めていただき、9月末までに、もし来年の予算編成をする場合には、9月までにその審議内容がまとまれば予算編成に取り組むことになると思う。分科会の目安は、45分程度ということであり、7時30分を目途にお願いしたい。

(よしの声)

— 分科会 (45分間) —

会議を再開する。

次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「③本日の審議結果について」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・説明

【船崎会長】

分科会の発表に入る。

最初に「“地域住民の交流の促進”に関する分科会」より報告願う。

【横山委員】

まず、分科会の名称は「地域交流分科会」とした。

新道地区の人的交流を中心とした、北部・中部・南部が一体となった事業を展開しようとして話合った。本日の話し合いでは、具体的にグラウンドゴルフ大会の実施という意

見が出た。まずは人的交流を図る事業を展開したいと話し合い、そしてこの取り組みを20年後へとつなげていかねばならないと確認し合った。

また市全体の活性化を高めるために、他の地区との交流も考えていく必要もある。

【船崎会長】

次に「“河川敷の活用による地域活性化”に関する分科会」より発表願う。

【金井委員】

まず、分科会の名前は「新道の道」分科会とした。新道地区の新しい道という意味を込めた。6人のメンバーの中に4人が女性ということで、女性の視点からの意見を聞くことができた。その中で、当然のこととして、将来に向けての夢や、子供に残せるものを是非とも作りたいとの話が出た。それには地域、小学生、保育園など様々な機関を巻き込みながら、将来に残すという大きな方向で一致した。そのためには具体的な協議相手がいる。国土交通省や新潟県である。全国の道路の桜並木には役所が関係しているので、協議は不可欠と思っている。

分科会としては、6月上旬に役所に出向いて、意見交換をすることが、最初の一步と考えている。役所から許可が下りた後も、予算の使い方やメンテナンス等、危惧される部分がたくさんあるわけだが、事前に検討を進めていきたい。役所を訪問する際は、積極的に同行したいと委員から聞いているので、日程調整しながら、できるだけ多くの委員とともに同行したい。

【船崎会長】

両分科会の説明に質疑を求める。

(発言なし)

【船崎会長】

以上で次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「③本日の審議結果について」を終了する。

次に次第2 議題「(3) その他」に入る。

本日の議題に関して、何かあるか。

【藤井係長】

- ・参考資料により地域活動支援事業の提案状況、5月20日ヒアリング実施について報告

【船崎会長】

今の説明に質疑を求める。

【佐藤委員】

地域活動支援事業の二次募集は行わないのか。

【藤井係長】

今年度の地域活動支援事業は経過措置として継続した経緯があり、市の方針として2次募集は行わないことになっている。

【船崎会長】

以上で次第2 議題「(3) その他」を終了する。

最後に、次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。事務局より説明を求める。

【藤井係長】

- ・次回の協議会について説明

【船崎会長】

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：6月24日（金）午後6時から 新道地区公民館 多目的ホール
- ・内容：自主的審議事項

【船崎会長】

最後に何かあるか。

【船崎会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。